

障害者をもつ家族の意識と 態度に関する心理学的研究

伊 藤 き よ 子

Consciousness and Attitude of the Family
that live with the Handicapped

Kiyoko ITOH

I はじめに

障害児・者を抱える家族は、家庭内で発生する諸問題のみならず、地域社会との関わりのおかげで、さまざまな問題に直面し、心理的・社会的ストレスを負わされていると推察される。しかしながら、障害児・者を抱える家族への関心がもたれるようになったのは、1970年代に入ってからであるといわれ、したがって、この分野の研究は非常に少い。その中からいくつかの研究例を紹介すると、橋本(1980)は障害児出生による家族のストレスを、障害の診断時頃から小学部入学前後時頃までの時間的推移でとらえ、そのパターンは両親の年齢、社会的地位、経済的地位、障害の程度により相違のあることを明らかにした。また、小椋ら(1980 a, b)はHolroydの開発したQRSを用いて、障害児をもつ母親の問題、家族の問題、子どもの問題に関わる因子を抽出し、それに基づき母親の心的ストレスに及ぼす子ども側の要因、母親側の要因を検討した。植村ら(1980, 1981, 1983, 1984 a, 1984 b)は、幼児期、学齢期の心身障害児をもつ親のストレスについて、尺度の構成と構造の分析を試み、さらにストレスが親自身の地域社会観の類型化との関連で、どのように異なるかを明らかにした。これらはいずれも障害児の家族を対象としたものであり、障害者の家族に関する研究例は極めて少い。

そこで本研究は、更生施設に入所あるいは授産施設に通所している障害者の家族に視点をあて、地域社会、親自身、家族、子どもに対する意識・態度について調査を実施し、障害者をもつ家族はどのようなストレスを有しているのか、また、それらは、親自身の地域社会に対する態度、つきあいの程度、年代、子どもの障害の程度などとどのような関わりがあるかを検討した。

Ⅱ 調査方法

1. 調査対象

名古屋市内のY福祉会の更生施設、授産施設に入所あるいは、通所している精神薄弱者の母親、またはそれに代わる役割を担っている者を対象とした。被調査者を母親としたのは、障害者の世話の大部分は母親が担っており、その分、ストレスも大きいと考えられるからである。回答を寄せてくれた被調査者の属性および障害者の属性は表1、2に示す通りである。

表1 被調査者の属性

人数, ()内は%

年		母親	母親以外	計
年齢	40歳 ~ 39歳	23(29.5)	3(16.7)	3(3.1)
	50歳 ~ 49歳	27(34.6)	4(22.2)	23(24.0)
	60歳 ~ 59歳	21(26.9)	1(5.5)	31(32.3)
	70歳 ~ 69歳	7(9.0)	10(55.6)	22(22.9)
	N.A.		7(7.3)	10(10.4)
居住地域	名古屋市		81(84.4)	
	名古屋市以外の愛知県内		6(6.2)	
	N.A.		9(9.4)	
居住環境	住宅地		52(54.2)	
	新興住宅地		5(5.2)	
	団地		13(13.5)	
	商業地		8(8.3)	
	工業農地		11(11.5)	
N.A.		3(3.1)	4(4.2)	
居住年数	5年 ~ 6年		14(14.6)	
	10年 ~ 11年		6(6.2)	
	15年 ~ 16年		12(12.5)	
	20年 ~ 20年		12(12.5)	
	N.A.		50(52.1)	2(2.1)
住居の形態	一戸建て持家		62(64.6)	
	集合住宅持家		6(6.2)	
	一戸建て借家		8(8.3)	
	集合住宅借家		16(16.7)	4(4.2)
家族構成	両親		36(37.5)	
	親 + 兄弟		12(12.5)	
	親 + 兄弟代		26(27.1)	
	親 + 兄弟		10(10.4)	
	三世		4(4.2)	
	兄弟またはその家族		8(8.3)	

注) 家族構成は障害者との関係を示し、障害者自身は省いた。

表2 障害者の属性

人数, ()内は%

性別	男	女	計
			48(50.0)
			47(49.0)
	N.A.		1(1.0)
年齢	20歳 ~ 19歳		11(11.5)
	25歳 ~ 24歳		25(26.0)
	30歳 ~ 29歳		23(23.9)
	35歳 ~ 34歳		14(14.6)
	40歳 ~ 39歳		10(10.4)
N.A.			11(11.5)
			2(2.1)
障害の程度	軽度		11(11.5)
	中度		41(42.7)
	重度		43(44.8)
	N.A.		1(1.0)
障害の特徴	てんかん		23(24.0)
	多動		17(17.7)
	おとなしい		35(36.5)
	誰にでもよく話しかける		26(27.1)
	収集へきがある		3(3.1)
その他			2(2.1)
N.A.			7(7.3)
障害に気づいた時期	0歳		26(27.1)
	1歳		17(17.7)
	2歳		16(16.7)
	3歳		14(14.6)
	4歳		4(4.2)
	5歳		4(4.2)
	6歳		1(1.0)
	7歳以上		6(6.2)
不明			2(2.1)
N.A.			6(6.2)

注) 障害の特徴は複数回答のため、合計は100%を越える。

2. 調査の実施方法

昭和60年8月初旬より10月中旬にかけて、託送による質問紙調査を実施した。配布数は175部有効回収数96部、回収率55%であった。

3. 調査項目の選定

1) 地域社会に対する態度の類型化に用いた尺度と構成項目

被調査者の地域社会に対する態度を類型化するために、植村ら（1977）が設定した態度尺度ならびに構成項目を利用することにした。植村らの設定した態度尺度は「積極性—消極性」の第Ⅰ尺度と、「協同志向—個別志向」の第Ⅱ尺度から成り、それぞれ表3に示す

表3 地域社会に対する態度の類型化に用いた尺度と構成項目

第Ⅰ尺度（積極性—消極性）

1. 町内会（自治会）での発言は、とかくあとでいろいろいわれやすいので、なるべく発言したくない。
2. この町をよくするための活動は、地元の熱心な人たちに任せておけばよい。
3. 学校の整備や遊び場の確保などについては、市当局のほうでうまくやってくれるだろうと信頼している。
4. 自分の住んでいる地域で住民運動がおきてもできればそれに関わりたくはない。
5. 近所の顔見知りの人とは親しくしたいが、知らない人とはそれほど親しくなりたいとは思わない。

第Ⅱ尺度（共同志向—個別志向）

6. 町内会（自治会）の世話をしてくれと頼まれたら、ひき受けてもよいと思う。
7. 地域の生活環境をよくするための公共施設の建築計画がある場合、自分の所有地や建物の供出にはできるだけ協力したい。
8. 自分の近所に一人暮らしの老人がいたら、その老人のために日常生活の世話をしあげたい。
9. いま住んでいる地域に誇りとか愛着のようなものを感じている。
10. 地域の皆と何かをすることで、自分の生活の豊かさを求めたい。

5つの意見項目より構成されている。回答形式は、各項目に対して「そう思う」から「そうは思わない」に至る5段階評定法を採用し、1～5点の評定値を与える。ただし第Ⅱ尺度は評定値を反転させ、「そうは思わない」を1点とする。こうして得られた合計点（両尺度とも5～25点の範囲）を個人の両尺度への得点として、態度の類型化を行う。すなわち、第Ⅰ尺度は20点以上を積極性（A）、15点以下を消極性（P）、第Ⅱ尺度は19点以下を協同志向（C）、15点以下を個別志向（I）と見做し、これらを組み合わせてA—C型、A—I型、P—C型、P—I型の4類型を設定する。なお植村らは地域福祉の立場からみて望ましい類型は、A—C型>P—C型・A—I型>P—I型の順となり、P—C型と、A—I型の優劣は、解決を要する課題場面により変化すると述べている。

2) ストレス尺度と構成項目

ストレス尺度とその構成項目は、小椋ら(1980 b)、植村ら(1980, 1984 b)が設定したものの中から選定した。小椋らはストレス尺度を親の問題、家族の問題、子どもの問題の3つのカテゴリー別に設定している。すなわち、親の問題は、(1) 精神的苦悩、(2) 悲観主義、(3) 過保護/依存、(4) 将来への不安、(5) 社会的孤立の5尺度、家族の問題は、(1) 家族への負担、(2) 経済問題、(3) 家族の和合の欠如の3尺度、子どもの問題は、(1) 知的能力の障害、(2) 身体能力の障害、(3) 子どものケアの必要の3尺度である。また、植村らは近隣・地域社会に対する親のストレスを測定すべく、(1) 近隣・地域社会の理解、(2) 近隣・地域社会でのひきめ、(3) 近隣・地域社会での子どもの交遊関係、(4) 地域環境、(5) 医療機関、(6) 訓練・相談機関、(7) 行政機関の7尺度を設立している。これらの尺度とその構成項目の中から精神薄弱者の家族にも適用可能なものを選出し、類似項目の整理、表現の検討などを行い、ストレス尺度は表4に示す17尺度を設定した。各尺度は数個の項目で構成され、合計56項目からなる。また、障害者が施設に入所あるいは通所する以前と現在とではストレスの大きさに差があるかをみるために、可能な項目は「過去」と「現在」の2通りの構成項目を作成した。したがって構成項目数は81となる。(表5参照)

表4 ストレス尺度

1. 地域社会との間に生じるストレスに関する尺度
 - A. 近隣・地域社会の理解
 - B. 近隣・地域社会でのひきめ
 - C. 訓練・相談機関
 - D. 行政機関
 - E. 地域環境
 - F. 医療機関
2. 親自身の問題に関するストレス尺度
 - G. 精神的苦悩
 - H. 悲観主義
 - I. 自立性
 - J. 自発性
 - K. 過保護
 - L. 将来への不安
 - M. 社会的孤立
3. 家族の問題に関するストレス尺度
 - N. 家族への負担
 - O. 家族の和合の欠如
4. 障害をもつ子ども自身の問題に関するストレス尺度
 - P. 知的能力の障害
 - Q. ケアの必要

各項目への回答の求め方は三件法とし、自己の見解と一致するものには「はい」、一致しないものには「いいえ」、どちらとも判断のつかないものには「？」に○印をつける方法をとった。

4. 調査票の構成

調査票は先に述べた調査項目の他に、フェイスシート項目、障害者の親同士のつきあいの程度と親の集まりへの参加態度に関する質問項目から構成されている。

Ⅲ 結果と考察

1. 地域社会に対する態度の類型化

はじめに植村らの方法により被調査者の地域社会に対する態度の類型化を試みたところ、第Ⅰ尺度の「積極性」に属する者は6名と少く、今回は植村らのように4類型に分類することは意味がないと判断した。そこで第Ⅱ尺度のみを用いて協同志向（C）型、個別志向（I）型に分類し、その中間（M）型を加えて3類型とした。各類型に属する人数はC型24名（25.0%）、I型27名（28.1%）、M型45名（46.9%）である。植村らの研究（1984 b）では心身障害児をもつ家族の場合、A—C型とP—C型で20.1%、P—I型とA—I型で30.8%を占めたと報告されている。この場合、C型あるいはI型であるがP、A型に属さないものは含まれていない。したがって、今回の結果と植村らのそれを比較すると、本調査の方が明らかにI型に属する者が少いといえよう。これは被調査者の居住年数が本調査では高く、それが地域の成員であるという自覚の高さにもつながっているのではないかと考えられる。

2. ストレス尺度構成項目への反応

ストレス尺度構成項目とそれに対する反応は表5に示す通りである。

「現在」の項目のみをみると、項目番号 52, 54 は意見に対する一致度が60%前後とやや高く、尺度別にみるならば、将来への不安に対するストレスが高い傾向にあるといえる。逆にストレスの小さい項目番号は 8, 10, 12, 14, 16, 18, 22, 23, 25, 31, 32, 36, 63 で、障害者に対する社会の理解も高まったせいも、近隣・地域社会に対するひきめや訓練・相談機関、医療機関に対する不満はあまり高くはないといえよう。

3. 過去と現在におけるストレスの差

表6に過去と現在のストレスの差について χ^2 検定を行った結果を示した。

25項目中16項目に1%もしくは5%水準で有意差が認められ、いずれの項目も現在の方がストレスは小さくなっている。特に近隣・地域社会の理解、将来への不安といった尺度の項目に

表5 ストレス尺度の構成項目とそれに対する反応

人数, ()内は%

尺度	項 目	反 応		
		は い	?	いいえ
A. 近 隣 ・ 地 域 社 会 の 理 解	1. 近所の人「子ども」を変な目でみるのが <u>つらかった</u> 。	50(52.1)	13(13.5)	33(34.3)
	2. 近所の人「子ども」を変な目でみるのが <u>つらい</u> 。	36(37.5)	14(14.6)	46(47.9)
	3. 「子ども」を連れて外に出るとジロジロながめられたり、何か陰で言われたりするようないやな思いをすることが <u>あった</u> 。	72(75.8)	4(4.2)	19(20.0)
	4. 「子ども」を連れて外に出るとジロジロながめられたり、何か陰で言われたりするようないやな思いをすることが <u>ある</u> 。	50(52.1)	8(8.3)	38(39.6)
	5. 近所の人に「子ども」のことでひどいことを言われ、くやしい思いをしたことが <u>あった</u> 。	38(39.6)	10(10.4)	48(50.0)
	6. 近所の人に「子ども」のことでひどいことを言われ、くやしい思いをすることが <u>ある</u> 。	22(23.4)	11(11.7)	61(64.9)
	7. 近所から「子ども」のことで苦情を言われたことがあつて <u>つらかった</u> 。	25(26.3)	7(7.4)	63(66.3)
	8. 近所から「子ども」のことで苦情を言われることがあつて <u>つらい</u> 。	9(9.5)	6(6.3)	80(84.2)
	9. 公共の場所に行くと「子ども」が近くにいてほしくない態度をした人がいて、なさけない思いをしたことが <u>よくあった</u> 。	30(31.2)	14(14.6)	52(54.2)
	10. 公共の場所に行くと「子ども」が近くにいてほしくない態度をする人がいて、なさけない思いをすることが <u>よくある</u> 。	16(16.7)	12(12.5)	68(70.8)
B. 近 隣 ・ 地 域 社 会 で の ひ け め	11. 近所の人に「子ども」をみせたく <u>なかった</u> 。	17(17.9)	12(12.6)	66(69.5)
	12. 近所の人に「子ども」をみせたく <u>ない</u> 。	10(10.4)	12(12.5)	74(77.1)
	13. 「子ども」のことをいわれそうで奥さんたちのおしゃべりには <u>入りにくかった</u> 。	16(16.7)	8(8.3)	72(75.0)
	14. 「子ども」のことをいわれそうで奥さんたちのおしゃべりには <u>入りにくい</u> 。	10(10.6)	9(9.6)	75(79.8)
	15. 通園施設や治療機関などへ通うときには世間体が <u>気になった</u> 。	22(22.9)	7(7.3)	67(69.8)
	16. 通園施設や治療機関などへ通うときには世間体が <u>気になる</u> 。	15(15.6)	8(8.3)	73(76.1)
	17. 「子ども」のために隣近所とのつきあいにも不義理をすることがあつて、気まづい思いをしたことが <u>多かった</u> 。	13(13.7)	11(11.6)	71(74.7)
	18. 「子ども」のために隣近所とのつきあいにも不義理をすることがあつて、気まづい思いをすることが <u>多い</u> 。	10(10.4)	9(9.4)	77(80.2)
	19. 「子ども」がいるために隣近所とのつきあいや発言などいろいろな面で何となく控え目になっている自分が <u>いやになった</u> ことがあった。	27(28.4)	8(8.4)	60(63.2)
	20. 「子ども」がいるために隣近所とのつきあいや発言などいろいろな面で何となく控え目になっている自分が <u>いやになる</u> ときがある。	26(27.1)	7(7.3)	63(65.6)

表5 つづき (1)

尺度	項 目	反 応		
		は い	?	いいえ
C. 相 練 談 機 関 ・ 関 訓	21. 専門家といわれる人たちに相談をもちかけても適切な指導や助言が得られないことが多く、いらいらする。	20(21.1)	18(18.9)	57(60.0)
	22. 現施設以外に「子ども」のことで継続的に相談にのってくれる所がほしいがないので困っている。	11(11.7)	15(16.0)	68(72.3)
	23. 今受けている訓練の内容に不満がある。	2(2.2)	16(17.4)	74(80.4)
D. 行 政 機 関	24. 「子ども」に関する役所での手続きが複雑なので、いつも面倒でいやになる。	17(17.9)	15(15.8)	63(66.3)
	25. 「子ども」のことで相談しても役所には誠意がみられず不満である。	11(11.5)	15(15.6)	70(72.9)
	26. 福祉対策が十分でなく、役所がきめ細かな援助をしてくれないので不満である。	18(18.9)	21(22.1)	56(59.0)
	27. 手当てなどの支給に、不公平な面がみられるので不満である。	21(22.1)	17(17.9)	57(60.0)
	28. 役所の福祉系の職員に勉強不足が目立ち不満である。	12(12.8)	20(21.3)	62(65.9)
E. 地 域 環 境	29. 「子ども」を雇ってくれる企業がないのは不満である。	24(25.5)	26(27.7)	44(46.8)
F. 医 療 機 関	30. 今まで「子ども」によい治療をうけさせてやれたかどうか自信がない。	36(38.7)	21(22.6)	36(38.7)
	31. 今通っている病院や治療機関では「子ども」の治療について適切な指導をしてくれないので不安である。	0(0.0)	6(16.2)	31(83.8)
	32. 今受けている治療の内容に不満がある。	0(0.0)	6(15.8)	32(84.2)
	33. 今受けている治療とは別の治療のことを耳にすると、そちらをためしたくなる。	5(13.9)	8(22.2)	23(63.9)
G. 精 神 的 苦 悩	34. もし私がおっと健康だと「子ども」の世話をみるのはもっと楽だろう。	41(45.0)	21(23.1)	29(31.9)
	35. 以前、私はときどき家を離れたいと思うことがあった。	25(26.9)	9(9.7)	59(63.4)
	36. 私はときどき家を離れたいと思うことがある。	19(20.4)	9(9.7)	65(69.9)
	37. もし「子ども」がいなければ対外活動も楽にできると思うことがあった。	43(45.7)	12(12.8)	39(41.5)
	38. もし「子ども」がいなければ、対外活動も楽にできると思う。	40(43.0)	13(14.0)	40(43.0)
	39. 私は「子ども」のことを考えてしょっちゅう悩んでいた。	54(58.1)	12(12.9)	27(29.0)
40. 私は「子ども」のことを考えてしょっちゅう悩んでいる。	48(50.5)	14(14.7)	33(34.8)	
H. 悲 観 主 義	41. そのうちには「子ども」も自分で、もっとできるようになるだろう。(F)	46(48.9)	14(14.9)	34(36.2)
	42. 月日がたつにつれ「子ども」の世話にますます手がかかるようになると思う。	22(23.2)	25(26.3)	48(50.5)
	43. 「子ども」はこれ以上よくなるらない。	43(45.3)	27(28.4)	25(26.3)
I. 自 立 性	44. 「子ども」は障害にもかかわらず自分の能力をとてよく発揮している。(F)	49(51.0)	26(27.1)	21(21.9)

表5 つづき (2)

尺度	項 目	反 応		
		は い	?	いいえ
J. 自 発 性	45. 「子ども」は自分でできるはずのことをできるだけやってみようとはしなかった。	34(35.8)	26(27.4)	35(36.8)
	46. 「子ども」は自分でできるはずのことをできるだけやってみようとはしない。	26(27.7)	26(27.7)	42(44.6)
	47. 以前, 「子ども」は自分で何でもやりたがった。(F)	37(39.0)	23(24.2)	35(36.8)
	48. 「子ども」は自分で何でもやりたがる。(F)	40(42.5)	23(24.5)	31(33.0)
K. 過 保 護	49. 私は「子ども」が自力でできることでも, ついやってやる傾向があった。	65(68.4)	12(12.6)	18(19.0)
	50. 私は「子ども」が自力でできることでも, ついやってやる傾向がある。	53(55.8)	14(14.7)	28(29.5)
L. 将 来 へ の 不 安	51. 「子ども」の将来を思って悲しくなることが多かった。	71(73.9)	9(9.4)	16(16.7)
	52. 「子ども」の将来を思うと悲しくなる。	64(66.7)	12(12.5)	20(20.8)
	53. 私はいずれ「子ども」の世話ができなくなったとき, どうなることやらと心配ばかりしていた。	70(73.7)	10(10.5)	15(15.8)
	54. 私はいずれ「子ども」の世話ができなくなったとき, どうなることやらと心配ばかりしている。	56(59.0)	16(16.8)	23(24.2)
M. 社 会 的 孤 立	55. 「子ども」の世話をすることで人間尊重の心が生じた。(現在) (F)	75(81.5)	14(15.2)	3(3.3)
	56. 私は他人から「子ども」の様子を聞かれたとき, 気まりの悪い思いをしたことはなかった。(F)	55(57.3)	14(14.6)	27(28.1)
	57. 私は他人から「子ども」の様子を聞かれたとき, 気まりの悪い思いをしたりはしない。(F)	63(65.6)	11(11.5)	22(22.9)
	58. 私の友人の中には「子ども」のために, たいへん力になってくれる者がいた。(F)	44(45.8)	14(14.6)	38(39.6)
	59. 私の友人の中には「子ども」のために, たいへん力になってくれる者がいる。(F)	46(47.9)	17(17.7)	33(34.4)
	60. 親しい友人達と問題を語り合うだけで気が楽になった。(F)	63(65.6)	17(17.7)	16(16.7)
N. 家 族 へ の 負 担	61. 親しい友人達と問題を語り合うだけで気が楽になる。(F)	62(64.6)	18(18.7)	16(16.7)
	62. 「子ども」は家族からじゃま者扱いされていた。	14(14.6)	9(9.4)	73(76.0)
	63. 「子ども」は家族からじゃま者扱いされている。	11(11.5)	6(6.2)	79(82.3)
	64. 「子ども」が居るので, 家族は皆辛抱しなければならなかった。	45(48.4)	20(21.5)	28(30.1)
	65. 「子ども」が居るので家族は皆辛抱しなければならない。	43(45.3)	18(18.9)	34(35.8)
	66. 「子ども」の世話は私達家族にとって家計上の負担になっていた。	28(29.2)	7(7.3)	61(63.5)
	67. 「子ども」の世話は私達家族にとって家計上の負担になっている。	24(25.3)	8(8.4)	63(66.3)

表5 つづき (3)

尺度	項 目	反 応		
		は い	?	いいえ
O. 家族の 和合の 欠如	68. 「子ども」は他の子と同じように自分なりのやり方で家の者を楽しませてくれた。(F)	38(39.6)	26(27.1)	32(33.3)
	69. 「子ども」は他の子と同じように自分なりのやり方で家の者を楽しませてくれる。(F)	45(46.9)	24(25.0)	27(28.1)
	70. 私達は「子ども」がだんだんひとりの人間として見えてくるようになり、楽しくなった。(現在)(F)	44(46.3)	29(30.5)	22(23.2)
P. 知的能 力の障 害	71. 「子ども」は自分の住所がわかる。(F)	51(53.1)	14(14.6)	31(32.3)
	72. 「子ども」は他人ととてもうまくやっ <u>ていける</u> 。(F)	23(24.7)	40(43.0)	30(32.3)
	73. 「子ども」は自分にむか <u>って</u> いわれていることを理解することが困難なので、言 <u>って</u> 聞かすこともなかなかできない。	28(29.2)	23(23.9)	45(46.9)
	74. 「子ども」は自分のことをひとりの人間として話 <u>すこと</u> ができる。(F)	40(42.6)	25(26.6)	29(30.8)
	75. 「子ども」は自分も一人前の人間だと思 <u>っている</u> 。(F)	59(62.2)	18(18.9)	18(18.9)
	76. 「子ども」は人に向か <u>って</u> 自分の気持ちを表現 <u>できる</u> 。(F)	45(47.4)	21(22.1)	29(30.5)
77. 「子ども」は他人への思 <u>いやり</u> の心を持っている。(F)	49(51.6)	31(32.6)	15(15.8)	
Q. ケアの 必要	78. 「子ども」のまわり <u>に</u> 人がいると私は <u>気</u> をゆるめることができない。いつもその子の <u>護衛</u> 役である。	32(33.3)	16(16.7)	48(50.0)
	79. 「子ども」が他人からジロジロ見られないよう守 <u>って</u> やらねばと感 <u>じて</u> いる。	30(31.6)	13(13.7)	52(54.7)
	80. 「子ども」は誰か <u>が</u> 自分のために何かを <u>や</u> ってくれ <u>ると</u> 知ると、もう自分 <u>で</u> やろうと <u>し</u> ない。	35(36.5)	22(22.9)	39(40.6)
	81. 「子ども」は注意を長時間集中する <u>こと</u> が <u>で</u> き <u>な</u> い。	54(56.3)	17(17.7)	25(26.0)

注1) No. 31~33 は障害をもつ「子ども」が治療を受けている者のみの反応である。

注2) (F) を付した項目は「いいえ」に反応した者がストレスを有する。

においてストレスの軽減は顕著である。16項目においてストレスが軽減したのは、近隣社会の障害者に対する理解が高まったことや、障害をもつ子どもが授産施設で労働する姿を見たり、施設を通じて親同士や職員と接する機会を得たことなどが良い結果を生み、意識を変容させたからではないかと考えられる。

4. 地域社会に対する態度の類型とストレスの関係

地域社会に対する態度と子どもの障害の程度、母親の年代を要因としてストレスの大きさを分析したが、要因間の交互作用についても検討したので、ここでは被調査者が母親以外のケースは除外した。したがって地域社会に対する態度は、C型23名、I型24名、M型28名に分類された。この類型によってストレスに差があるかどうかを検討した。

表6 過去と現在におけるストレスの差の検定

尺 度	項 目	χ^2 df=2
A. 近隣・地域社会の理解	1—2 近所の人が……変な目でみるのがつらい (つらかった)。	24.637 **
	3—4 子どもを連れて外に出ると……いやな思いをすることがある (あった)。	56.375 **
	5—6 近所の人に子どものことで……くやしい思いをすることがある (あった)。	27.875 **
	7—8 近所から子どものことで苦情をいわれることがあってつらい (つらかった)。	31.253 **
	9—10 公共の場所に行くと……なさけない思いをすることがよくある (あった)。	21.828 **
B. 近隣・地域社会でのひけめ	11—12 近所の人に子どもをみせたくない (なかった)。	6.358 *
	13—14 子どものことをいわれそうで……おしゃべりには入りにくい (にくかった)。	13.500 **
	15—16 通園施設や……通うときには世間体が気になる (なった)。	9.127 *
	17—18 子どものために……気まづい思いをすることが多い (多かった)。	3.500
	19—20 子どもがいるために……自分がいやになるときがある (あった)。	5.698
G. 精神的苦悩	35—36 私はときどき家を離れたくなることがある (あった)。	9.060 *
	37—38 もし子どもがいなければ対外活動も楽にできると思う (思うことがあった)。	1.333
	39—40 私は子どものことを考えてしょっちゅう悩んでいる。(いた)。	16.043 **
J. 自発性	45—46 子どもは自分でできるはずのことを……やってみようとはしない (しなかった)。	11.750 **
	47—48 子どもは自分で何でもやりたがる (やりたがった)。	1.176
K. 過保護	49—50 私は子どもが自力で……ついやってやる傾向がある。(あった)。	18.321 **
L. 将来への不安	51—52 子どもの将来を思うと悲しくなる (なることが多かった)。	10.451 **
	53—54 私はいずれ子どもの世話ができなくなったとき……心配ばかりしている (いた)。	21.679 **
M. 社会的孤立	56—57 私は他人から……気まりの悪い思いをしたりはしない (したことはなかった)。	18.375 **
	58—59 私の友人の中には……たいへん力になってくれる者がいる (いた)。	4.000
	60—61 親しい友人達と問題を語り合うだけで気が楽になる。(なった)。	1.500
N. 家族への負担	62—63 子どもは家族からじゃま者扱いされている (いた)。	5.997 *
	64—65 子どもがいるので……皆辛抱しなければならぬ (ならなかった)。	3.166
	66—67 子どもの世話は……家計上の負担になっている (いた)。	5.229
O. 家族の和合の欠如	68—69 子どもは他の子と同じように……家の者を楽しませてくれる (くれた)。	5.698

** p<0.01

* p<0.05

表7 障害の程度別にみた類型間のストレスの差の検定

尺度	障害の程度		全 体		軽 度		中 度		重 度	
	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df
A. 近隣・地域社会の理解	8.828	4	22.748**	4	3.673	4	7.196	4		
B. 近隣・地域社会でのひきめ	20.057**	4	5.440	4	3.940	4	27.631**	4		
C. 訓練・相談機関	8.314	4	5.860	4	2.333	4	8.755	4		
D. 行政機関	3.853	4	2.968	4	10.907*	4	8.343	4		
E. 地域環境	2.531	4	4.583	4	2.402	4	5.232	4		
F. 医療機関	1.424	4	3.611	2	0.777	4	1.503	2		
G. 精神的苦悩	4.292	4	3.282	4	0.090	4	4.390	4		
H. 悲観主義	20.257**	4	5.362	4	9.034	4	19.705**	4		
I. 自立性	12.259*	4	2.979	4	5.182	4	7.241	4		
J. 自発性	6.935	4	8.504	4	10.266*	4	4.830	4		
K. 過保護	4.337	4	5.500	4	2.240	4	3.349	4		
L. 将来への不安	1.619	4	4.357	4	6.644	4	8.289	4		
M. 社会的孤立	18.954**	4	8.698	4	14.505**	4	12.496*	4		
N. 家族への負担	8.875	4	6.518	4	6.738	4	11.356*	4		
O. 家族の和合の欠如	15.962**	4	6.723	4	13.469**	4	21.773**	4		
P. 知的能力の障害	31.242**	4	4.391	4	20.782**	4	12.908*	4		
Q. ケアの必要	20.428**	4	1.490	4	8.691	4	16.926**	4		

** p<0.01

* p<0.05

表8 障害の程度別にみた類型とストレスの関係

尺度	障害の程度		全 体	軽 度	中 度	重 度
A. 近隣・地域社会の理解				I>M・C		
B. 近隣・地域社会でのひきめ			I>M・C			I>C>M
C. 訓練・相談機関						
D. 行政機関					M>C>I	
E. 地域環境						
F. 医療機関						
G. 精神的苦悩						
H. 悲観主義			M>I>C			I>M>C
I. 自立性			I>M>C			
J. 自発性					M>I>C	
K. 過保護						
L. 将来への不安						
M. 社会的孤立			I>M>C		M>I>C	I>M>C
N. 家族への負担						I>C>M
O. 家族の和合の欠如			I>M>C		M>I>C	I>M>C
P. 知的能力の障害			M>I>C		M>C>I	I>M>C
Q. ケアの必要			I>M>C			I>M>C

子どもの障害の程度別にみた母親の類型間のストレスの差の χ^2 検定結果は表 7, 8 に示す通りである。「全体」として類型間に有意差が認められた尺度記号は B, H, I, M, O, P, Q であり, このうち H, P を除く 5 尺度において I 型のストレスが大きく, C 型は小さいという結果が得られた。また, 子どもの障害の程度別では, 「軽度」の場合, 類型間に有意差の認められるのは尺度 A のみであり, 「重度」になるほど類型間に有意差の認められる尺度は多くなる。障害者が「重度」の場合, I 型は C 型に比べ, 近隣・地域社会においてひけめを感じ, 悲観的傾向が高く, 社会的にも孤立している傾向にある。また家庭においても家族の和合が欠如している事が多く, 子どもに対するケアの必要性を感じる者も多い。

次に表 9, 10 より母親の年代別に類型間のストレスの大きさの差をみると, 年代が低いほどストレスに差が認められ, 40代では A, B, D, H, M, N, O, Q の 8 尺度において C 型の方が I 型よりストレスは小さい傾向にある。この結果から, C 型で年齢の若い母親は障害者問題に対し, 前向きな姿勢をもっているのではないかと推察される。

5. 母親の年代のストレスの関係

母親の年代によるストレスの強さの差を, 母親の地域社会に対する態度の類型別及び子どもの障害の程度別に検討した。

まず, 全体としての母親の年代とストレスの関係は, 表 11, 12 の「全体」欄にみられるように尺度 A, B, D, F, H, J, M, N, O において有意差が認められた。そのうち A, B, N は年代の低い者ほどストレスが小さく, F, J は年代の高い者のストレスが小さい傾向にある。

これを各類型別に検討すると, 表 11, 12 に示されるように, C 型と I 型において年代間のストレスの差が大きいことがわかる。尺度 A では, C 型の 40代は他の年代に比べ地域社会の理解はあると意識しているのに対し, I 型の 40代は, それがないと意識しており, 対照的な結果となった。また尺度 D においても同様の結果が得られた。全体的に C 型の 40代は他の類型, 年代に比べストレスが小さいといえる。

子どもの障害の程度別に, 母親の年代間のストレスの差を検討した結果は表 13, 14 に示す通りである。「軽度」において年代による差が多く現われている。「軽度」の 40代は地域社会の理解はあると感じ, ひけめを感じたり, 悲観的に思う者はいないが, 地域環境に対する不満は高い。「軽度」に比べ「中度」「重度」に年代によるストレスの差の出現が少かったのは, どの年代においてもストレスが高い傾向にあったためである。

6. 子どもの障害の程度と母親のストレスの関係

子どもの障害の程度の差と母親のストレスの関係を表 15, 16 に示した。「全体」としては, 尺度 A, F, H, L, P において障害の程度の間有意差が認められ, 「軽度」は, それらの尺度においていずれもストレスは小さい。

表9 母親の年代別にみた類型間のストレスの差の検定

尺 度	母 親 の 年 代		40 代		50 代		60 代		70 代	
	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df
A. 近隣・地域社会の理解	17.898**	4	10.064*	4	5.899	4	4.965	4		
B. 近隣・地域社会でのひきめ	11.179*	4	18.304**	4	6.063	4	8.960	4		
C. 訓練・相談機関	2.775	4	5.097	4	4.926	4	13.270*	4		
D. 行政機関	18.798**	4	15.196**	4	5.904	4	6.546	4		
E. 地域環境	6.804	4	8.105	4	4.125	4	3.888	4		
F. 医療機関	0.935	4	6.813	4	3.272	4	△			
G. 精神的苦悩	5.360	4	3.095	4	0.556	4	7.944	4		
H. 悲観主義	18.443**	4	2.087	4	9.527*	4	6.733	4		
I. 自立性	5.034	4	5.104	4	20.092**	4	2.666	4		
J. 自発性	5.770	4	10.112*	4	2.741	4	1.230	4		
K. 過保護	2.200	4	2.481	4	2.061	4	1.600	4		
L. 将来への不安	7.214	4	4.460	4	3.854	4	12.227*	4		
M. 社会的孤立	13.664**	4	4.990	4	8.200	4	7.294	4		
N. 家族への負担	11.821*	4	6.450	4	5.032	4	7.999	4		
O. 家族の和合の欠如	15.081**	4	6.460	4	6.272	4	3.984	4		
P. 知的能力の障害	35.115**	4	15.552**	4	9.404	4	8.854	4		
Q. ケアの必要	12.827*	4	4.416	4	8.821	4	5.567	4		

** p<0.01

* p<0.05

注) △印は、反応が同一のものに集中し、検定不能のものである。

表10 母親の年代別にみた類型とストレスの関係

尺 度	母 親 の 年 代		40 代		50 代		60 代		70 代	
A. 近隣・地域社会の理解			I>M>C		I>M>C					
B. 近隣・地域社会でのひきめ			I>M>C		I>C>M					
C. 訓練・相談機関									C>I>M	
D. 行政機関			M>I>C		M>C>I					
E. 地域環境										
F. 医療機関										
G. 精神的苦悩										
H. 悲観主義			M>I>C				M>C>I			
I. 自立性							I>M>C			
J. 自発性					M>I>C					
K. 過保護										
L. 将来への不安									C>I>M	
M. 社会的孤立			I>M>C							
N. 家族への負担			I>M>C							
O. 家族の和合の欠如			I>M>C							
P. 知的能力の障害			M>C>I		M>I>C					
Q. ケアの必要			I>M>C							

表11 類型別にみた母親の年代によるストレスの差の検定

尺 度	全 体		協 調 型		中 間 型		個 別 型	
	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df
A. 近隣・地域社会の理解	40.221**	6	42.293**	6	5.456	6	21.701**	6
B. 近隣・地域社会でのひきめ	19.709**	6	25.569**	6	9.065	6	9.699	6
C. 訓練・相談機関	7.681	6	10.812	6	4.462	6	7.071	6
D. 行政機関	19.340**	6	17.974**	6	24.827**	6	16.593*	6
E. 地域環境	12.506	6	7.848	6	8.775	6	13.005*	6
F. 医療機関	17.522**	6	15.000*	6	5.464	6	7.795	6
G. 精神的苦悩	9.403	6	8.981	6	4.572	6	5.189	6
H. 悲観主義	13.884*	6	9.619	6	10.184	6	9.629	6
I. 自立性	11.923	6	5.366	6	11.947	6	5.952	6
J. 自発性	14.368*	6	5.744	6	8.557	6	8.728	6
K. 過保護	7.563	6	2.770	6	3.959	6	5.199	6
L. 将来への不安	7.386	6	12.691*	6	12.453	6	6.908	6
M. 社会的孤立	22.154**	6	18.702**	6	5.947	6	13.592*	6
N. 家族への負担	15.018*	6	28.069**	6	6.804	6	9.211	6
O. 家族の和合の欠如	13.239*	6	6.948	6	7.194	6	15.606*	6
P. 知的能力の障害	9.883	6	4.636	6	19.324**	6	22.220**	6
Q. ケアの必要	8.335	6	11.644	6	13.505*	6	2.733	6

** p<0.01

* p<0.05

表12 類型別にみた母親の年代別とストレスの関係

尺 度	全 体	協 調 型	中 間 型	個 別 型
A. 近隣・地域社会の理解	60>70>50>40	60>70>50>40		40>70>50>60
B. 近隣・地域社会でのひきめ	70>60>50>40	70>60>50>40		
C. 訓練・相談機関				
D. 行政機関	70>50>60>40	70>60>50>40	70>50>40>60	40>70>60>50
E. 地域環境				40>70>60>50
F. 医療機関	50>40>60>70	50>60>70・40		
G. 精神的苦悩				
H. 悲観主義	50>60>40>70			
I. 自立性				
J. 自発性	50>40>60>70			
K. 過保護				
L. 将来への不安		70>50>60>40		
M. 社会的孤立	70>50>60>40	50>70>60>40		70>50>60>40
N. 家族への負担	70>60>50>40	70>60>50>40		
O. 家族の和合の欠如	50>70>40>60			70>60>40>50
P. 知的能力の障害			40>70>50>60	60>50>70>40
Q. ケアの必要			60>50>40>70	

表13 障害の程度別にみた母親の年代によるストレスの差の検定

尺 度	障 害 の 程 度		軽 度		中 度		重 度	
	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df	χ^2	df
A. 近隣・地域社会の理解	21.801**	4	25.446**	6	9.224	6		
B. 近隣・地域社会でのひきめ	18.173**	4	23.876**	6	8.831	6		
C. 訓練・相談機関	16.593**	4	8.122	6	8.577	6		
D. 行政機関	14.365**	4	11.967	6	30.537**	6		
E. 地域環境	10.083*	4	4.414	6	9.896	6		
F. 医療機関	0.928	2	25.306**	6	6.197	6		
G. 精神的苦悩	7.485	4	17.380**	6	13.244*	6		
H. 悲観主義	12.815*	4	13.855*	6	12.556	6		
I. 自立性	1.695	4	9.302	6	6.332	6		
J. 自発性	12.012*	4	8.712	6	5.837	6		
K. 過保護	5.901	4	11.469	6	3.879	6		
L. 将来への不安	9.674*	4	4.205	6	11.457	6		
M. 社会的孤立	6.238	4	22.913**	6	1.489	6		
N. 家族への負担	21.766**	4	9.356	6	2.914	6		
O. 家族の和合の欠如	5.423	4	9.777	6	24.712**	6		
P. 知的能力の障害	9.004	4	6.232	6	34.216**	6		
Q. ケアの必要	6.306	4	8.556	6	8.906	6		

** p<0.01

* p<0.05

表14 障害の程度別にみた母親の年代とストレスの関係

尺 度	障 害 の 程 度		軽 度	中 度	重 度
	χ^2	df			
A. 近隣・地域社会の理解			70>50>40	60>40>50>70	
B. 近隣・地域社会でのひきめ			70>50>40	70>60>40>50	
C. 訓練・相談機関			70>40>50		
D. 行政機関			70>40>50		70>50>40>60
E. 地域環境			40>70>50		
F. 医療機関				50>40>60>70	
G. 精神的苦悩				60>50>40>70	70>50>40>60
H. 悲観主義			50>70>40	50>60>40>70	
I. 自立性					
J. 自発性			40>50>70		
K. 過保護					
L. 将来への不安			70>40>50		
M. 社会的孤立				70>50>60>40	
N. 家族への負担			70>40>50		
O. 家族の和合の欠如					50>70>40>60
P. 知的能力の障害					50>70>40>60
Q. ケアの必要					

表15 母親の年代別にみた障害の程度によるストレスの差の検定

尺 度	母親の年代				
	全 体	40 代	50 代	60 代	70 代
	χ^2 df	χ^2 df	χ^2 df	χ^2 df	χ^2 df
A. 近隣・地域社会の理解	25.779** 4	7.619 4	24.039** 4	0.053 2	10.954* 4
B. 近隣・地域社会でのひきめ	8.136 4	9.947* 4	20.010** 4	1.220 2	6.353 4
C. 訓練・相談機関	4.328 4	4.951 4	8.790 4	2.708 2	9.741* 4
D. 行政機関	6.074 4	16.995** 4	19.654** 4	0.301 2	5.428 4
E. 地域環境	3.576 4	4.533 4	7.196 4	1.594 2	7.000 4
F. 医療機関	13.202* 4	2.749 4	20.495** 4	1.090 2	△
G. 精神的苦悩	8.088 4	8.243 4	14.561** 4	5.264 2	9.777* 4
H. 悲観主義	19.107** 4	24.195** 4	7.709 4	2.167 2	10.466* 4
I. 自立性	2.529 4	0.916 4	2.535 4	0.172 2	2.666 4
J. 自発性	1.142 4	3.168 4	5.914 4	0.336 2	3.692 4
K. 過保護	1.885 4	4.155 4	1.541 4	2.116 2	4.800 4
L. 将来への不安	12.139* 4	3.749 4	21.601** 4	0.428 2	6.727 4
M. 社会的孤立	9.736 4	5.645 4	11.419* 4	0.005 2	4.173 4
N. 家族への負担	1.698 4	3.866 4	3.863 4	0.883 2	9.000 4
O. 家族の和合の欠如	5.137 4	7.749 4	13.314** 4	8.463* 2	3.880 4
P. 知的能力の障害	53.996** 4	34.198** 4	44.375** 4	5.609 2	10.536* 4
Q. ケアの必要	8.894 4	2.907 4	18.020** 4	0.686 2	1.778 4

** p<0.01 * p<0.05

注) △印は、反応が同一のものに集中し、検定不能のものである。

表16 母親の年代別にみた障害の程度とストレスの関係

尺 度	母親の年代				
	全 体	40 代	50 代	60 代	70 代
A. 近隣・地域社会の理解	重>中>軽		重>軽>中		重>軽>中
B. 近隣・地域社会でのひきめ		重>中>軽	重>中・軽		
C. 訓練・相談機関					軽>中>重
D. 行政機関		重>軽>中	重>中>軽		
E. 地域環境					
F. 医療機関	中>重>軽		中>重>軽		
G. 精神的苦悩			中>重>軽		
H. 悲観主義	重>中>軽	重>中>軽			重>軽>中 重>軽>中
I. 自立性					
J. 自発性					
K. 過保護					
L. 将来への不安	中>重>軽		重>中>軽		
M. 社会的孤立			軽>中>重		
N. 家族への負担					
O. 家族の和合の欠如			重>中>軽	中>重	
P. 知的能力の障害	重>中>軽	重>中・軽	重>軽>中		重>中>軽
Q. ケアの必要			重>中>軽		

母親の年代別にみると、「50代—軽度」は精神的苦悩や将来への不安を感じているものは少く、行政機関、医療機関への不満もない。これに対し、「50代—重度」はひきめ、将来への不安、家族の和合の欠如、知的能力の障害などを感じている者が多い。「40代—軽度」はひきめをほとんど感じておらず、悲観的にもなっていないようである。全体的に「軽度」の障害者をもつ母親のストレスが小さかったのは当然の結果といえよう。

以上、母親のもつストレスの大きさに影響を与えると考えられる3つの要因について調査結果を分析してきた。しかし、母親の年代とストレスの関係を例にとれば、尺度Aは40代が最もストレスが小さく、60代が最も大きいと、それを類型別に分けて検討すると、I型では逆の結果となっている。つまり諸要因の交互作用があると考えられるので、ストレスの大きさを1つあるいは2つの要因によって分析することは問題があるかもしれない。しかし、今回は回答者が少なかったために、2要因を用いた分析では1つのカテゴリーに含まれる人数が少なく、集団の傾向というよりは個人の特性によって左右された場合もあると考えられる。これに対し、1要因による分析（例えば母親の年代とストレスの関係）では、1つのカテゴリーの人数も多くなるのでその結果を集団の傾向と認めてもよからう。

7. 障害者の家族同士のつきあいの程度とストレスの関係

障害者の家族同士のつきあいがある方が悩みを分かちあったり、助言を得ることができ、単独の場合よりもストレスが軽減されるのではないかと思われる。この点を検討するために、家族ぐるみでつきあっている家がある（家）、母親同士でつきあいをしている家がある（母）、会合などで話しを交わす程度（会）、つきあいはほとんどない（無）の4段階のつきあいの程度により、ストレスの大きさに差があらわれると考えられる13の尺度について χ^2 検定を行った。

表17 つきあいの程度とストレスの関係

尺 度	χ^2	df	ストレス
A. 近隣・地域社会の理解	16.194*	6	無>会>母>家
B. 近隣・地域社会でのひきめ	40.631**	6	無>母>会>家
C. 訓練・相談機関	15.455*	6	無>会>家>母
D. 行政機関	22.756**	6	無>母>会>家
E. 地域環境	3.344	6	
F. 医療機関	10.454	6	
G. 精神的苦悩	14.320*	6	無>母>会>家
H. 悲観主義	14.987*	6	無>会>母>家
I. 自立性	9.023	6	
J. 自発性	4.106	6	
K. 過保護	5.581	6	
L. 将来への不安	2.893	6	
M. 社会的孤立	42.989**	6	無>会>家>母

** $p < 0.01$

* $p < 0.05$

その結果は表17に示す通りである。尺度A, B, C, D, G, H, Mにおいて有意差が認められた。ストレスの大きさは、障害者の家族とほとんどつきあいのない者は大きく、家族ぐるみでつきあっている者は小さい傾向にある。このことは、障害者の家族同士のつきあいがストレスの軽減に役立つことを示していると考えられる。

先に述べた3要因のうち、

障害の程度と母親の年代は、個人の意志で変えられるものではなく、地域社会に対する態度も変革することは容易ではない。その点からいえば、つきあいの程度は比較的容易に変革が可能と思われるので、つきあいのほとんどない者は、まず施設の会合に出席するなど、態度の変容に努めることがストレス軽減のためには有効であろう。

Ⅳ 要 約

障害者をもつ家族、中でもその世話を中心となって担っていると考えられる母親の地域社会、親自身、家族、子どもに対する意識と態度について調査した結果を要約すると、次のようである。

1. 地域社会に対する態度の類型は、C型25.0%、I型28.1%、M型46.9%に分類された。
2. ストレス尺度に対する反応は、将来への不安に対する意識が高く、近隣・地域社会に対するひきめ、訓練・相談機関、医療機関に対する不満の意識は低かった。
3. 障害をもつ子どもが施設に人所あるいは通所する以前と現在のストレスの大きさを比較すると、現在の方がストレスは小さくなっている傾向にあり、特に近隣・地域社会の理解、将来の不安といった尺度においてストレスの軽減が顕著であった。
4. 類型とストレスの関係は、B、H、I、M、O、P、Qの各尺度において有意差が認められ、H、Pを除く尺度ではI型のストレスが大きく、C型は小さかった。
5. 母親の年代とストレスの関係では、尺度A、B、Nは年代の低い者ほどストレスが小さく、F、Jは年代の高い者のストレスが小さい傾向にあった。
6. 障害の程度とストレスの関係は、尺度A、F、H、L、Pに有意差が認められ、どの尺度においても軽度のストレスが小さかった。
7. つきあいの程度とストレスの関係は、尺度A、B、C、D、G、H、Mにおいて有意差が認められ、障害者の家族とほとんどつきあいのない者はストレスが高く、家族ぐるみでつきあっている者は低い傾向にあった。

参 考 文 献

橋本厚生(1980)「障害児を持つ家庭のストレスに関する社会学的研究—肢体不自由児を持つ家族と精神薄弱児を持つ家族の比較を通して—」特殊教育学研究 Vol.17 No. 4 22~33

稲浪正充・西信高・小椋たみ子(1980 a.)「障害児の母親の心的態度について」特殊教育学研究 Vol. 18 No. 3 33~41

小椋たみ子・西信高・稲浪正充(1980 b.)「障害児をもつ母親の心的ストレスに関する研究(Ⅱ)」島根大学教育学部紀要(人文社会科学) No. 14 57~74

新美明夫・植村勝彦(1980)「心身障害幼児をもつ母親のストレスについて—ストレス尺度の構成—」特殊教育学研究 Vol. 18 No. 2 18~33

植村勝彦・新美明夫(1981)「心身障害幼児をもつ母親のストレスについて—ストレスの構造—」

特殊教育学研究 Vol. 18 No. 4 59~69

新美明夫・植村勝彦(1984 a.)「学齡期心身障害児をもつ父母のストレス構造」
特殊教育学研究 Vol. 22 No. 2 1~11

植村勝彦・新美明夫(1984 b.)「心身障害児をもつ家族の近隣・地域社会に対するストレス―
地域社会に対する態度類型による比較―」地域福祉研究 No. 12 39~49

植村勝彦・新美明夫・田中国夫・藤本忠明(1977)「地域社会に対する態度の類型化による心身
障害者観の構造的分析」社会福祉研究 Vol. 21 21~25

本研究を行うにあたり、ご指導いただきました愛知県立大学青木民雄教授、調査にご協力いた
だきました社会福祉法人ゆたか福祉会ならびに関係者のご家族の方々に深謝申し上げます。